

## 日本赤十字篤志看護婦人会(最終回)新潟支会高田分会の活動

著者	堀 良子
雑誌名	NICかわらばん
巻	409
発行年	2010-02-06
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10631/799">http://hdl.handle.net/10631/799</a>

# 看護大通信

65



基礎看護学領域

教授 堀 良子

資料によると新潟支会

高田分会は、1904

(明治37)年9月に創設

されました。その当時、

日露戦争出征兵士の鼓舞

激励や家族の慰問保護は、

各町村で組織した尚武会

が

とめ

てい

ました。しかし、後送さ

れる傷病兵の看護や手当

てまでは手がまわらない

ことに心痛めた時の知命

堂病院院長、瀬尾原始氏

が分会設立についてソノ

子婦人に相談しました。

婦人は高田師範学校長夫

所検事夫人小原ヤス子に

相談し、この3人を総代

として、願書を提出。ソ

ノ子は東奔西走して46名

の同志を集め、瀬尾原始

による県などへの働きか

けもあり、小原ヤス子を

会長として設立の認可を

得たのです。

長途輸送の間にぐ  
ちやぐちやになつ  
た包帯を取り換え、  
乗り降りの手助け

などをしたそうです。ま

た、牛乳や温かい味噌汁

を提供し、懐炉や薬、含

嗽剤などを贈ったのでし

た。そして、わずかな停

車時間にも「痛手をこら

えての旅のつれづれを忘

れしめよう」と軍談や義

太夫などを聴かせたなど

度)まで残っています、

ここで解散となったかど

うかは記述がなくわかり

ません。日赤篤志婦人会

の活動は終戦まで続いた、

と歴史書には書いてあり

ます。

大関和は明治23〜29年

まで高田で過ごし、瀬尾

原始院長に請われて知命

堂病院の婦長と付設され

た産婆看護婦養成所の指

導に当たりました。その

時、ソノ

子婦人が

チフスに

罹患し、大関は80日も付

き添い看護をしました。

ソノ子が全快した時の2

人の写真が残っています。

## 日本赤十字篤志看護婦人会(最終回)新潟支会高田分会の活動

高田分会の活動につい  
て、創立30年記念誌から  
拾ってみます。

傷病兵の後送は、仙台

予備病院から新発田、村

松両分院へ回され、直江

津が乗換駅となっていま

した。この乗換には1〜

3時間の停車時間があり、

と書かれています。その他、

軍病院に向いての慰問

や直江津の大火災、トン

ネル事故の際などには救

護隊を組織して駆けつけ

たそうです。また、多く

の寄付や物品の寄贈も行



瀬尾原始夫人ソノ子と大関和  
(看護学生のための日本看護  
史より転載)